

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2020年8月号 vol.111

緩和・支持・心のケア合同学術集会2020の参加報告（Web開催）

8月9日（日）・10日（月／祝）にオンラインで開催された「緩和・支持・心のケア合同学術集会2020」に参加いたしました。もともとは8月11日（火）・12日（水）に、第25回日本緩和医療学会学術大会・第5回日本がんサポーターケア学会学術集会・第33回日本サイコロロジー学会総会の3学会合同で、京都国際会館で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、日時を変更し、完全Webで行われることになったものです。



当院から発表のあった演題は、以下の通りです。

●シンポジウム

・「救命救急士の生涯学習に緩和ケア研修を導入して得られたこと～救急隊員への緩和ケア研修の意義と地域救急体制の抱える問題点について～」 伊藤浩明

●ポスター発表

・「救命救急士の生涯学習に緩和ケア研修を導入して得られたこと～救急隊員への緩和ケア研修の意義と地域救急体制の抱える問題点について～」（シンポジウムと同じ内容） 伊藤浩明

・「嘔吐・食欲不振に対してオランザピンとミルタザピンを併用し、症状緩和が得られたことで最期の思いを実現することができた1例」 藤田建

・「当院における担癌状態で肺結核を発症した8例の検討」 志津匡人

・「地域で求められる緩和ケア病棟・緩和ケアチームとは～緩和ケア外来患者の転帰から考える～」 西尾静

オンライン開催では、良いこともあれば残念なこともあります。以下に今回の開催で感じたことをまとめてみました。感染終息の目途が立たない状況では、このような開催に慣れていく必要があるのかもしれませんが。

<オンライン開催で良かったと感じたこと>

- ・「会場が一杯で入場できず、聞きたいのに聴講できなかった」ということが起こらない
- ・「同じ時間帯に開催されたため、聞きたいのに聴講できなかった」ということが起こらない
- ・聴講中に急いでメモをとったりする必要がなく、一時停止したりしてゆっくりメモすることができる
- ・学会期間が終わっても、自分の都合で何度でも録画を見て聴講できる
- ・自分の発表を、録画で客観的に見て反省できる（かなり恥ずかしいものです…）

<オンライン開催で残念に感じたこと>

- ・会場の熱気が感じられないため、聴講者の雰囲気・反応が分からない
- ・ポスター発表は、演者が思いを伝えたり直接質疑応答したりする機会がないため、発表の意義を感じにくい
- ・発表会場で同じ興味を持つ者同士が討論する機会がなく、顔の見える関係の新たな醸成はできない
- ・直接集まらないため、学会会場で遠方の友人と会ったり、親睦会（飲み会？）を開催したりできない
- ・学会という機会での旅行ができず、気晴らしにならない

（文責：伊藤 浩明）

令和2年度の緩和ケア勉強会について

令和2年度の緩和ケア勉強会は、当院の会議等開催制限が解除されてから再開する予定です。申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちください。

